

人との触れ合いをとおして

私が、路線バスに乗って駅に向かっていた時の出来事です。

バスが途中、バス停で停まりました。バス停では、車椅子に乗った年配の女性とその介助をする女性と同じくらいの年齢の男性がバスを待っていました。バスの運転手は、「このバスは、車椅子のままでは乗車できませんので、次のバスまでお待ち下さい。」と告げると、同伴者の男性が「大丈夫です。車椅子を畳んで乗車します。」と答えました。

バスの車内は、休日ということもあって、杖を持った年配のハイカーの人々などでほぼ満席でしたが、席を譲り合って、皆が座ることができました。

やがて、バスは終点の駅前に着きました。皆が降りた後で、同伴の男性は、車椅子をバスの外に広げて、女性を介助して、車椅子に乗せてあげました。

私は、二人に「何か手伝えることはありますか」とたずねると、「いいですよ。大丈夫です。」と答えが返ってきました。

バス降り場と駅前の歩道との間には、縁石の段差があってその男性は車椅子をもち上げるのに苦労しています。私は、少しだけその手助けをしました。

男性は、「ありがとうございました。10年前に奈良に来て、美術館で見た素晴らしい絵画を妻にも見せたくて、関東から二人で来ました。このあとは、大阪の娘のところに行きます。」と私に伝えた後、妻が乗った車椅子を押して駅に向かわれました。

高齢化が着実に進む中、高齢者の尊厳が確保され、高齢者が安心していきいきと暮らせる社会を築いていくことが望まれますが、一方では高齢者をめぐる深刻な人権問題も増えているのも事実です。私たちはこの世に生を受けたかけがえのない一人の人間として、だれもが皆、人間らしく生き、幸せに暮らす権利を持っています。お互いに相手の立場を認め合い、権利や自由を尊重し合うことによって成り立っています。

他人に無関心でいるよりも、相手の立場に立って考えること、相手を思いやる心を育むこと、家族や他人に優しくすること。お互いのことをわかりあえる人間関係を築くなど、人権を育む行動は「社会に潤い」と「人の心に優しさ」をもたらします。ひとつずつ出来ることから始めてみませんか。

